

持続的需要変動対応について

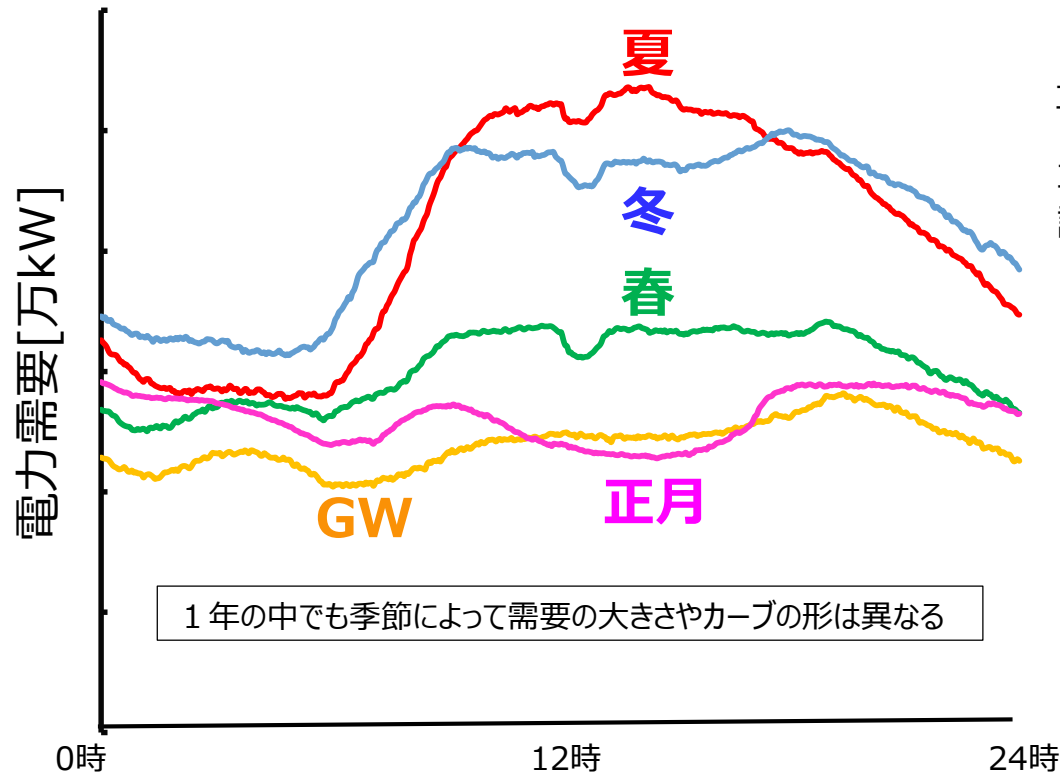
2021年12月20日

持続的需要変動に関する勉強会 事務局

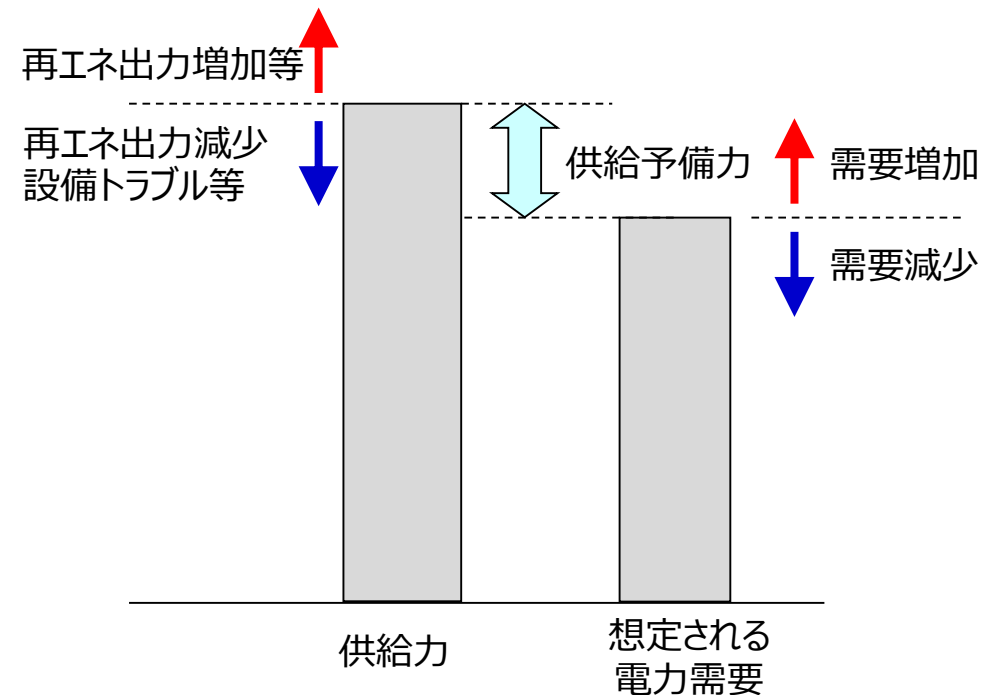
電力需要と供給力の確保について

- 電力需要は、季節や気象状況、時間帯によって大きな差があり、電気は貯めておくことができないため、瞬時瞬時で需要と供給のバランスを保つことが必要となる。
- 電力需要に対し供給力が不足すると、電気の品質のひとつである周波数を一定に保てなくなり、最悪の場合大規模停電に至る恐れがあるため、想定される電力需要以上の発電設備を備える必要がある。
- 気象変動等による需要増加および自然変動電源の出力減や発電設備のトラブル停止等の供給力減少に対応できるよう、供給予備力を確保することを安定供給の目安としている。
- 一方で供給予備力が多すぎると設備投資や経費が過大となるため、適切な保有量を検討する必要がある。

電力需要の一例



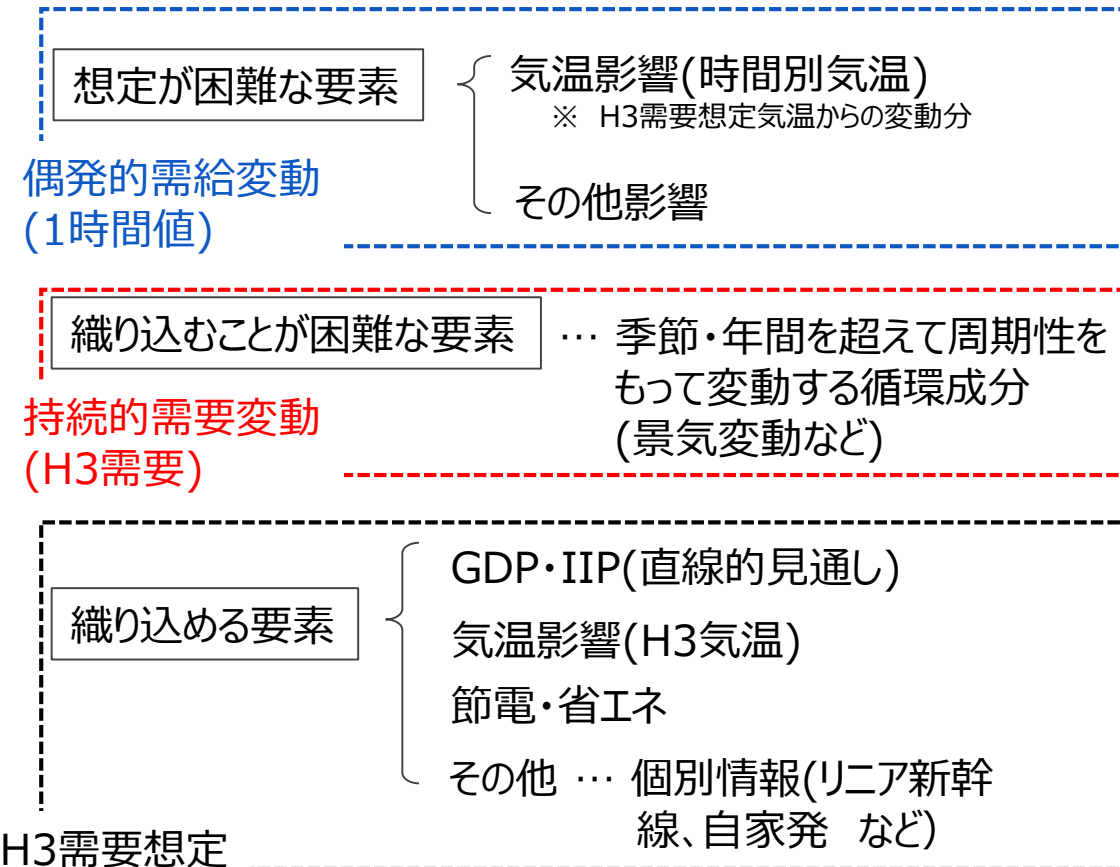
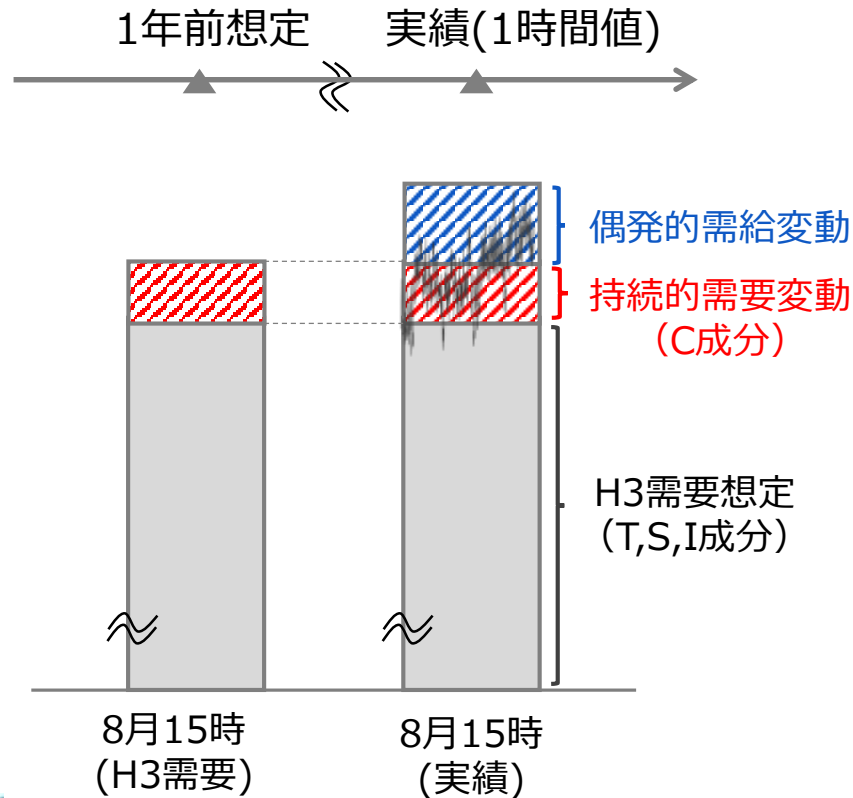
供給予備力のイメージ



需要想定とその他の需要変動について

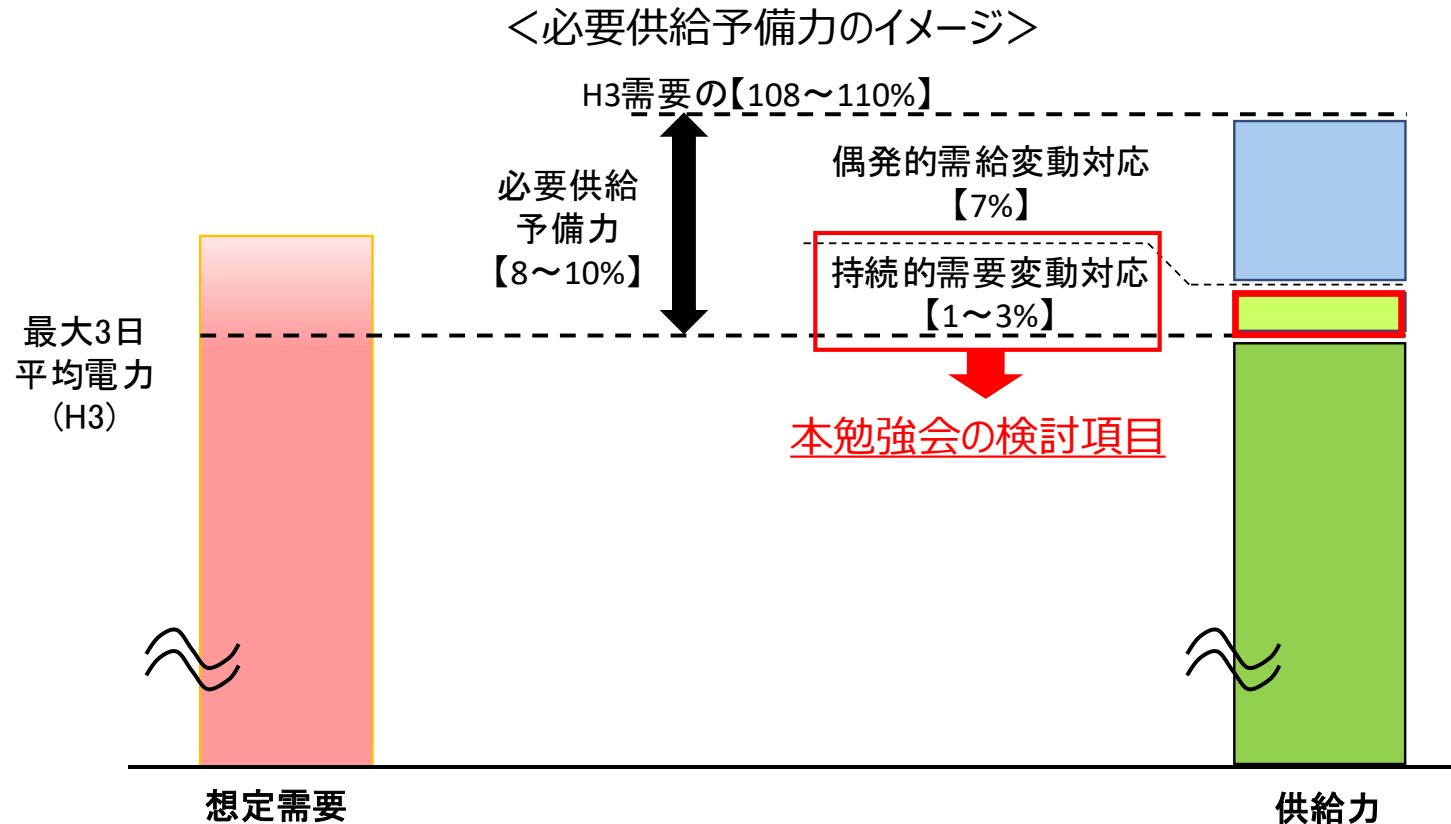
- 供給計画における需要想定ではH3需要※を対象として、「GDP・IIP(直線的見通し)」「気温影響」「節電・省エネ」「その他個別情報」の要素を事前に織り込んでいる一方、織り込めていない要素として、「流行など、発生するか予測が困難であるものの周期性をもって変動する要素」として『持続的需要変動』を予備率として確保している。
- また、実需給断面では1時間値までを想定する必要があるが、H3需要以上の細かな需要想定は現実困難であり、H3需要から1時間値までの需要変動要素として、「H3需要想定に対する、突発的な事象の要素」として『偶発的需給変動』と定め、これも予備率として確保している。

※ 各月最大3日平均電力



持続的需要変動対応について

- 必要供給予備力のうち、景気変動等による『持続的需要変動』対応分について、これまでの調整力および需給バランス評価等に関する委員会の議論を踏まえ、本勉強会において最新の需要実績による分析結果の精査や分析における各種設定方法などについて検討を進めることとしたい。



※【 】内の数字は必要供給予備力の検討において見直しを検討している数字

※偶発的需給変動対応については、確率論的必要供給予備力算定手法（EUE）において対応必要量を算定している

【出典】調整力及び需給バランス評価等に関する委員会平成28年度（2016年度）取りまとめ抜粋
http://www.occto.or.jp/houkokusho/2017/chousei_jukyu_2016nendotorimatome.html